

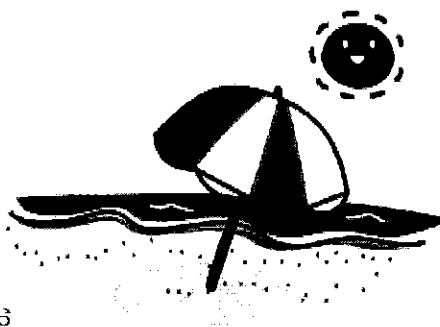
心を見つめる

先週1週間は“長崎っ子の心を見つめる教育週間”でした。初日には“校長講話”と“地元高校に学ぶ”を実施し、2日目には“救急救命法”を計画していましたが、台風接近のため、まさかまさかの臨時休校。急遽、今週に延期をしました。また、6日には“命の授業”と学年学級PTAを実施し、多くの保護者の皆様にご来校いただきました。

さて、この教育週間のメインテーマは“命”。校長講話においても、『「一生懸命頑張る」という言葉をよく使います。この「懸命」は、文字通り「命を懸ける」という意味ですが、「一生」という言葉が鍵だと思っています。つまり「生きる」ということです。自分のために、家族や周りの人たちのために、「精一杯生きる」という意味を含んでいるのです。中学生である皆さんが、「今、一生懸命勉強する、部活を一生懸命頑張る」のは、自分の道(人生)を切り開き、懸命に生きていくために行っていることなのです。一生懸命頑張って、生きる力を身につけてください!!』という話をしました。

“地元高校に学ぶ”では、口加高校、小浜高校2校からの説明がありました。両校とも特色ある教育がなされており、その内容に加え、高校生が“夢や憧れ”を持ち、自分らしさに磨きをかけている様子や、本校卒業生の活躍の様子を伝えていただきました。終了後、高校の校長先生方から、「本当に良く聞いてくれました。素晴らしいです」とのお褒めの言葉をいただきました。

“命の授業”を参観された保護者の皆様はどんな感想をお持ちだったでしょうか。その後、“命”について親子で話をされたでしょうか。教育週間は終わりましたが、あと10日ほどで夏休みを迎えます。コロナ対策や熱中症対策、水難事故や交通事故防止といった、直接命に関わることへの意識を高めると同時に、時間を有効に使って「自分の可能性を広げ、一生懸命生きていく」という決意を持って欲しいと願っています。



自分との闘い

昨年まで、夏休みに入ってから行っていた、市中体連駅伝競走大会の練習を、今年は7月7日から開始いたしました。この競技に限っては、通常行っている部活動と違い、学校全体から選手を選抜してチームを編成します。このため、練習時間も限られており、通常、朝の早い時間帯を利用しての練習となります。

今年、この練習会への参加者を募ったところ、40名を越える生徒が手を上げてくれました。初日、7:20に練習を開始しましたが、既に太陽は昇っており、約30分の練習で大汗をかいていました。まさに「自分との闘いだなあ」と思うと同時に、「この生徒たちは、必ず体力だけでなく強い精神力を持つはず」と確信しました。この練習に参加する生徒は本当に大変です。しかし、生徒だけではありません。早朝から、体育科の中村奈美先生、鍛取先生をはじめ、多くの先生方が練習に参加しています。各ご家庭にもご負担をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。皆で生徒をバックアップし、練習に参加している生徒全員に「感動と感謝」を実感してほしいと願っています。